

科目	医療環境教育学	担当	北野 達也	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

医療従事者の教育においては、①医療従事者養成校における教育、②職能団体による生涯教育、③医療現場における教育が三位一体となり、継続的な資質の向上に努めることが重要である。特に臨床現場は卒後再教育の場であり、「医療人」としての人格形成の場でもある。また、「教育」と「環境」は密接な関係があり、キャリア・パスを重視した体系的な教育カリキュラム構築は当然のこと、院内教育体制や周囲環境を整えることが最重要課題である。この講義では、教育手法と教育環境との重要性を理解し、Non-Technical Skillsの強化や、臨床現場において、いかに有効かつ継続的な院内教育システム構築をするかについて理解を深め、具体的な改善策を提案できるよう学習する。

**【履修注意】**

携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入退室禁、10回以上出席を条件とする。  
※「医学教育学」は医療マネジメントコース必修科目である。

**【評価方法】**

①期末テストによる評価:60%、②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

**【試験について】**

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件:総合(期末テスト及び授業参加・レポート等)による評価が60点未満の学生  
※但し、総合による評価が40点未満の学生は不合格とし、再試験を実施しない。

**【予習・復習】**

各回授業内容に応じ、授業前予習(専門用語、関連文献等の検索)、授業後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。※1コマ当たり90分を目安に予習・復習を行うこと。

**【教科書】**

購入教科書なし

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	Introduction	医学教育学とは?医学教育学、医療環境、医療人育成
2	医学教育の現状	医療教育の現状、院内教育、医療施設格差、実習指導者格差
3	院内教育のあり方	有効な院内教育、人的資源管理、人材再教育、継続的教育手法
4	医療環境とスタッフの連携	医療環境の重要性、環境・組織・認知心理学、組織目標の共有
5	養成校教育と医療現場教育	養成校と医療現場教育、PBL、OSCE、目標到達度評価、効果測定
6	医学教育の落とし穴	医学教育技法、価値観・判断基準の明確化、解決課題の共有化
7	院内教育システム構築	院内教育システム構築の手法、医療オペレーション・マネジメント CRM、Team STTEPPS、Non-Technical Skillsの強化、組織再構築
8	中間まとめ	1～7まとめ(レポート)
9	医学教育技法Ⅰ	医療倫理、プロフェッショナリズム、基本的教育原理、利他主義
10	医学教育技法Ⅱ	エビデンスに基づく教育手法、Yes, and、コーチング技術の習得
11	医学教育技法Ⅲ	教員の役割(計画者、評価者、教材開発)、ファシリテーション技術の習得
12	医学教育技法Ⅳ	現場・教育のロールモデル、問題基盤型・アウトカム基盤型教育、インプロウイゼーション教育
13	医学教育技法Ⅴ	教育カリキュラムの開発、医療面接技法、模擬患者:実習
14	医学教育技法Ⅵ	医療従事者養成校における教育手法・教育計画立案:演習Ⅰ
15	医学教育技法Ⅶ	臨床現場における教育手法・教育計画立案:演習Ⅱ
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ